

＜令和5年度 研修事業 受講者数 受講者の声＞

令和5年度、当教育センターでは、初任段階教員研修を始めとする基本研修、専門研修、担当者研修・協議会等を開催しました。

【受講者数】※延べ人数として集計

研究種別	受講者数
基本研修（初任段階教員研修、中堅教諭等資質向上研修）	127名
専門研修（管理職研修、教科等研修、課題別研修）	384名
担当者研修（教育課程研究協議会・教務担当者研究協議会等）	507名

【受講者の声（一部抜粋）と研修の内容等】

① 基本研修（初任段階教員研修、中堅教諭等資質向上研修）
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領等を踏まえ、ねらいを達成できるように授業改善を推進する必要がある。（1年次） ○ 研修での学びは、とても力になるので、積極的に研修に参加していきたい。（2年次） ○ 地域等との連携・協働力が低いので、研修等を受けて資質・能力を高めていきたい。（3年次） ○ 様々な研修に積極的に参加し、専門的知識を身に付けることに努め、日常の授業改善を図っている。（4年次） ○ 総合的な学習の時間における外部人材活用の視点をもつなど、教育課程の工夫・改善に向けた取組を進めたい。（5年次） ○ ICT教育、カリキュラム・マネジメントについては、今後も研鑽を積み、スキルアップを図っていく。（中堅教諭等）

② 専門研修（管理職研修、教科等研修、課題別研修）
<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別な配慮を必要とする児童についての対応の仕方は、管理職のみならず教員もしっかり学ぶ必要があると感じた。（管理職研修Ⅰ） ○ ジェンダーについて、無自覚のままに男女の区分で押しつけてきたものが多くあることに気付かされた。（管理職研修Ⅱ） ○ 児童が、主体的に目的意識をもって対話している姿を見ることができた。（授業改善Ⅰ） ○ 主体的に学ぶ子どもを育てるためには、教師の意識改革が必要だと感じた。（授業改善Ⅱ） ○ 自分の席にいながら他の子の考えを参考にすることができ、ICTの強みが生かされていると感じた。（授業改善Ⅲ） ○ ICTを使うことが主目的にならないということを念頭に、効果的な活用をしていくべきと感じた。（ICT教育） ○ 不登校児童への支援のあり方、校内体制づくりについて学びを深めることができた。（生徒指導Ⅰ） ○ 子どもの変化の可能性と一緒に探していくことが大切だと学んだ。（生徒指導Ⅱ） ○ シンポジウムでは、様々な立場の方の考えを聞いたことが、とても勉強になった。（生徒指導Ⅲ） ○ 教諭だけでなく、支援員の立場からできるサポートの仕方について学べたのがよかった。（特別支援教育Ⅰ） ○ 様々な学校の先生方と意見交流ができ、横のつながりをもつことができた。（特別支援教育Ⅱ） ○ 教育上配慮が必要な児童への具体的な支援のイメージをつかむことができた。（特別支援教育Ⅲ）

③ 担当者研修（教育課程研究協議会・教務担当者研究協議会等）
<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別最適な学びと協働的な学びを目指すうえでICTの活用がポイントになることが改めてわかった。（教育課程研） ○ カリキュラム・マネジメントについて、学校体制を整えて取り組んでいく必要があると感じた。（教務担当研） ○ 養護教諭の役割を生かした教育相談のスキルについて学ぶことができた。（養護教諭研）

④ 「訪問研修」の主な内容と授業改善アクションプロジェクトについて
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「生徒指導提要」改訂を踏まえた生徒指導の基本（改訂のポイント、いじめ、不登校等）について ○ 「チーム学校としての生徒指導対応」いじめの捉え方と予防、児童生徒の居場所づくりについて ○ 「特別支援教育」通常の学級における特別な支援を要する児童への対応について ○ 函館市の就学相談・就学指導について ○ 各教科等における授業改善について（「授業改善アクションプロジェクト」3名実施）